

幼稚園・小学校・中学校の子どもの環境認識の発達と環境学習に関する研究

1 プロジェクトメンバー氏名と所属

*は代表者

附属小学校グループ *木全清博(校長) 瀬古祐嗣
(副校長) 西村喜雄、岡部陽造。

附属中学校グループ 千原孝司(校長) 藤池聡
(副校長) 西 孝俊、保木康弘。

附属幼稚園グループ 近藤文良(園長) 西川正晃
(副園長) 岡崎弘奈。

2 研究の目的と計画

本研究は、大津市膳所キャンパスにある滋賀大学教育学部附属学校園の子どもの環境認識の発達と環境学習に関して、3つの学校園の教員が相互の保育見学や授業見学を通して、環境学習に関するカリキュラム開発や教材研究や授業づくりの研究を行おうとするもの、幼稚園・小学校・中学校の12年間の子どもの環境認識に関する発達調査を行い、環境認識にエポックとなる時期、環境学習のキーとなる内容を明らかにすること、幼稚園と小学校低学年、中学年と高学年、小学校高学年と中学校下学年など、各時期の環境学習の内容・方法について共同研究を推進すること、の3点を目的としている。

同一地区に立地する12年間の成長・発達をとらえることができる学校園の長所を生かして、異なる校種の環境学習についての共同研究を実施する点に独自性を有する。

3 今年度の状況報告

2005年度の第1年次の研究は、各学校園で主に今年度実施した授業実践をまとめて、これを検討し合う事にした。各学年や各教科で行った環境学習に関わる授業研究として、校内研究会や公開研究発表大会で報告したものを中心に出し合い、その指導案をそれぞれ検討してコメントを付け合うことを試みた。

また、ILECの環境指導者講習会のカリキュラム上に幼稚園、小学校、中学校の環境学習の授業見学を位置づけて、小学校、中学校では1日づつ環境学習を公開し、環境問題や環境学習に関する国際交流を行ってきた。

各校園から提出され検討された環境学習の実践は、現在までのところ次の通りである。

<附属幼稚園>

- | | | | |
|---|-----|-------------|-------|
| 1 | 3歳児 | 「すみれ組保育指導案」 | 板谷 薫 |
| 2 | 4歳児 | 「もも組保育指導案」 | 居川正美 |
| 3 | 4歳児 | 「さくら組保育指導案」 | 岡崎弘奈 |
| 4 | 5歳児 | 「きく組保育指導案」 | 森 千代子 |
| 5 | 5歳児 | 「あやめ組保育指導案」 | 西澤彩木 |

<附属小学校>

- | | | | |
|---|--|-------|--|
| 1 | 第4学年「水のリサイクル」(社会科) | 全15時間 | 西田和弘 |
| 2 | 第4学年「水の変身」(理科) | 全13時間 | 岡部陽造 |
| 3 | 第5学年「環境を守る人と私」「同」(社会科) | 全5時間 | 西村喜雄 |
| 4 | 第5学年「同」(社会科) | 全5時間 | 西村喜雄 |
| 5 | 第6学年「線と面の匠(たくみ)たち」(図工科) | 全6時間 | 松山辰也 |
| 6 | 第1~6学年「琵琶湖と子どもの心を豊かにつなぐ環境学習」(生活科・総合学習) | | 西村喜雄
(『「確かな学力」を伸ばす学習指導の創造』明治図書
2005年11月) |
| 7 | Environment Education in Social Studies Classes | | Yoshio Nishimura |
| 8 | Environment Education Focused on Fresh Water Environment | | |

<附属中学校>

- | | | | |
|---|-------------------------|------|------|
| 1 | 第1学年「植物の生活と種類」(理科) | 全3時間 | 澤田一彦 |
| 2 | 第1学年「エコ・クッキングに挑戦!」(家庭科) | 全2時間 | 西村淳子 |
| 3 | 第1学年「森林資源と木材」(技術科) | 全2時間 | 河野卓也 |

来年度の課題としては、子どもの環境認識の発達調査を実施して、環境学習のエポックを明らかにすること、環境教育カリキュラムや環境教材の開発を行うこと、校園間相互の環境学習の授業交流を実現することが、あげられる。